

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393500016		
法人名	有限会社 桜花		
事業所名	グループホームさくらそう A棟		
所在地	岡山県苫田郡鏡野町小座424-1		
自己評価作成日	平成25年10月17日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に多く参加し、地域密着の理念に沿って職員たちのスキルアップに力を入れる事を実践している。 ・認知症対応に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3393500016-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成25年10月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成18年5月に開設して8年目を運営しているが、このホームで一番目につくことは職員の気持及び態度の良さだろうと思う。良さと云っても決して固苦しいものでなく、人なつこい姿勢で笑顔も多く、職員同士が仲良くホーム内で仕事を熟なしている。そして利用者の心をどのように知ろうとするか、全職員の心配りだと思う。職員は60才台から20才台まで幅広い年齢で19名配員されているが、若い職員に云わせると、職員同士で声をかけやすい。落ち着いて仕事ができるので、介護福祉士や介護支援専門員の資格を取ってほしいと意欲もあることだ。職員全体がケアマネージメントの改善意欲もあり、先行効率的且つ効果的なケア及びサービス提供に期待できそうだと思う。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・開設以来の基本理念を掲示し管理者がスタッフに問いかけ思いを共有している。	このホームの理念は、認知症であっても一人の人間としての生活を支えていく基本的な内容を定めているので職員も理解しやすいし、毎日の介護作業に結びつけられる。この理念は職員で共有しやすいと思う。	自己評価55項目がホームの運営のための細部を示している。自己評価をホームの運営アセスメントに使ってケア及びサービスの向上に役立てて欲しい。その総合の評価が理念の実践の成果に継がると思う。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域行事への参加 ふるさと祭り、秋祭り、清掃活動等	近隣の小学校から子供の訪問がある。年によっては3校の訪問があるそうだ。リビングルームに小学生が書いた「手紙・似顔絵・色紙」が掲示しており、子供と利用者の楽しい交流の雰囲気を感じる。ホームは「こどもを守る110番の家」にも指定されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・施設での行事へ地域の方々の参加を呼びかけ、生活の様子を知って貰う。 ・介護相談に応じる(町主催の家族会に参加)。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月に1回運営推進会議を開催している。 ・状況報告し、施設運営の改善に取り組んでいる。	町役場、地域区長、包括支援センター、民生委員、利用者家族で構成され2ヶ月に1回開催している。ホームからはホームの最近の様子や問題点を話しており、ホームの機関紙も配布している。出席者から行政や地域の情報を得ることができる。会議の結果は、職員にも伝えている。	地域密着型のホームにとっては運営推進会議は地域への情報発信の場としても重要である。出席される地区長にホームの機関紙を地区に回覧してもらえよう相談してみてもどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・入所状況、事故報告をその都度行っている。 ・支援の中で疑問に思う事等は町に相談している。	平素から、問題点を町に相談をして解決しているが、町が企画する介護・福祉関係の研修には必ず参加している。今年度4～9月、8回もホームから参加して研修を受けている。町との関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・どのような事が身体拘束になるか機会あるごとにスタッフに伝え、身体拘束ゼロのケアを行っている。	ホームの玄関のドアはセンサーを設置しているが施錠はしていない。また、わがままな行動をする利用者がリビングで過ごしているときも、車椅子の動きをブロックしていない。身体拘束をしないケアを心がけている様子が見える。	介護は安全と拘束の腹合わせである。建物の構造上、玄関から表通りに向けて下っているし、通りは車の通行が多い。リスクマネジメントの工夫が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・利用者の身体観察し、虐待に値する行為が無い確認している。 ・利用者の訴えかけに耳を傾け、スタッフの言葉遣いにも注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	・成年後見人制度の研修に多くの職員が参加し、それらを活用できるように支援、実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・本人、家族の意見を聞き取り、介護目標をカンファレンスして日常の不安や疑問点をモニタリングする。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族への近況報告をより充実させ連携を取り合い理解を深めていく事。	・利用者は全て地区の近隣住民。家族との距離も近く、利用者の近況報告や家族の意向を直接聞いて運営やケア方針に反映させている。機関紙「さくら通信」は発行のたびに家族に送っている。家族の要望を取り入れ、機関紙には利用者の写真を多く載せている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月職員会議を通して運営に関する意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	・職員のチームワークを重んじ、職員の提案を積極的に取り入れている。例えば、生活記録用紙を改善する時は、職員会議や個別に参加で決め、職員のモチベーションを高められるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・代表者と共に職場で動きやすいように個々の努力が研修参加に力を入れてやりがいのある職場理念としている。 ・職員の短所長所を見極め引き出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員が質の高いケアを提供できるよう内外の研修を受ける機会を確保して働きながらトレーニングしていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・同業者施設を訪問して互いに交流を持ち、実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人の日々の様子を観察しながらコミュニケーション作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の話をしっかり聞いて要望に答える様にする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人家族が一番必要としている要望を聞き、取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人と周りの様々な関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族の話をしっかり聞いて一緒に問題を考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・会話の中や、外出して関係が途切れない様になっている。	・利用者が新規に入所する時には、事前に情報収集をするが、入所後の様子を観察し要望を聞き出し、その人その人の「馴染み」の把握に努めている。要望により、車椅子で実家を訪問できる支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・一人一人が孤立しないようにスタッフが気遣っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス利用ターミナル等で契約が切れても必要に応じて支援に納得して貰えたか家族へのつながりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・その人らしさを暮らしの中で発揮する力を引き出し、関わっていく。	利用者一人ひとりの「心身の情報(私の姿と気持ちシート)」のフォーマットを定め各自の心の姿を作成している。それには「性格を知って」「困ること」「体のことを知ってほしい」等9つのチェック項目がある。これによって本人の心身に関する意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用者の生活歴史(家族)、経過シートを通して築いてサポートしていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・利用者の家族が有している思いを受け止め、活かしながら利用者に接して支援していく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・家族への近況報告をより充実させてスタッフ、関係者の意見を話し合い連携を深めていく。	「心身情報」の他、一人ひとりの「個別支援計画書」「日常生活支援プラン表」「評価表」を作成し、「サービス担当者会議の要点」で「家族の意向」を把握している。利用者の担当制は敷いてないが、これらの記録から職員全員の協議により介護計画が作成されている。	記録するフォーマットが多く、きめ細かなモニタリングができているが、記録の目的と内容をはっきりして、効率的な作業になるよう考えてみてはどうでしょう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別記録で実践に活かされるように工夫している。 ・引き継ぎの実用性を活かし、さらに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人、家族のニーズが高い場合も積極的に話し合い、できるかぎり受け入れていく姿勢をとっている。 ・職員のチームワークで可能になっていることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・外出、散歩は地域社会に接する大きなチャンスなので利用者への理解を深めるつながりになるので機会があれば実践している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・家族本人の意向を尊重し、かかりつけ医との連携を築きながら支援している。	かかりつけ医の協力があり、2週間に1回、定期往診がある。受診の同行は家族が原則であるが、車椅子の利用者等支援が必要な人は職員が付き添う。かかりつけ医とホームの看護師の関係は密接であり医療連携がよく出来ている。歯科医の往診もあり、口腔ケアの指導も受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日常の関わりの中で気づきを看護師に伝えて相談し、意思に報告をし、適切な受信や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・医師との連携等責任を持って安心して治療を受けられるように十分に説明しながら支援を実践している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・本人、家族の話し合いを持ち、希望に沿った方針を共有しスタッフに伝達し共に支援している。	かかりつけ医の協力もあり、今までホームで10回位の看取りをしている。かかりつけ医からのターミナル指示書もあり、ホームではターミナル体制をとり、ターミナルケアプランを作成して対応する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時の備えとして研修等に参加し勉強をしており、実践として対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的な避難訓練を全職員が周知しており、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練を実施している。その様子は運営推進会議でも報告され、地域への協力要請もしている。敷地が広いので、避難ルート・避難場所も確保できている。	災害は任任にして夜間に起きがち。夜間は職員一人で9名の利用者を避難させなければならない。職員間でモデルになって9名を避難させるための時間を知る必要がある。また、地震に備えて、避難経路が塞がれないよう、備品の固定化をしておかなければならない。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人一人の残された能力を引き出し人格を尊重しプライバシーを損ねない対応を実践している。	排泄及び入浴時の下着を取る時の心構えを、管理者は日頃から注意している。時には冗談めかして「黙って下着を取ると暴行罪になるよ」と注意喚起をしている、と話してくれた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人の希望や思いを探り当て表せる ・自己決定ができるように話しかけ働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・管理された生活ではなく、自然な生活ゆったりとした生活、利用者に話しかける、話を聞くことから一日の始まりを実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・利用者個々のその人らしいカラーがでるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・個人の好みの職を聞き出来るだけそれに近いものを一緒に作ったり準備をしたり主体性を持って生活している。 ・月一回立食パーティーを開催し利用者に喜んで頂いている。	食事は3食とも、献立・買い出し・調理全てをローテーションを組んで職員が手作りしている。利用者にも役割を考えていて、できる人には包丁を使った皮むきや表の菜園で作った野菜を取ってきてもらっている。食事風景は楽しそうであった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一目で職員たちが摂取量、水分確保ができていないか記録して状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後本人の力に応じた口腔内の清潔保持のケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の排泄のパターンを活かし排泄の自立を手伝っている。 排泄チェック表を活用している。 	利用者それぞれの排泄記録を小まめにつけて排泄パターンの把握に努めている。夜間はおしめ・パッドやポータブルトイレを使用する人もいるが、昼間は職員の声掛けによりトイレで排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 便秘の原因を考え、食べ物や水分量等に工夫をしている。 排便チェック表も活用している。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 個人の希望や健康状態に合わせて声かけをし、楽しんで入浴してもらっている。 	利用者の入浴は隔日に実施している。特殊浴槽はなく、重度の利用者は二人介助をしている。閉じこもりの人には入浴のタイミングを計っている。入浴拒否の人には清拭や陰洗を行い身体の清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 状況状態に合わせて気持ち良く休んでもらうよう努めている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 個々の薬の内容をしっかりと理解して、間違いの無いように服薬して貰っている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 個々の力に応じて役割、気分転換等をしてもらっている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 天候や体調を考え戸外に出られるよう努めている。 	敷地の表にテーブルと椅子が常備されており、天気の良い日には日光浴が楽しめる。開設時から車椅子も積める28人乗りの施設バスがあり大勢で外出することができる。小型乗用車での買い物や遠足等、外出支援には心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・入居者一人一人の希望や力に応じて所持金(おこづかい)を使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人が職員を通して電話したり手紙のやりとりができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用の空間では利用者にとって不快や混乱をまねかない様に配慮し生活感や季節感を取り入れている。	リビングの壁には利用者の塗り絵や行事の様子を撮った写真が数多く飾ってある。机の上には職員が家から持ってきた花が活けてある。また、職員が取ってきたメダカが鉢の中を泳いでいる。職員全員が心地よい空間作りを心がけている様子がよく分かった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・独りになれたり話が合う利用者同士でゆったり過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室は本人の好みや使い慣れた物を活かしてゆっくり過ごせるようにしている。	各居室には和筆筒・洋服筆筒が常備されており、その上には、利用者それぞれの思いが籠った物が置いてある。化粧品のセットが置いてある部屋、くじで当たったというゴルフバッグを飾っている人等、本人の意向により個性的な居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・一人一人が安全で自立した生活が送れるようにしている。		